

群馬県立渋川青翠高等学校 学校評価一覧表 (令和7年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策		点検・評価			達成度		達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目	方 策	達成度	自己評価	外部アンケート等	総合	達成状況			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動(授業等)を行っていますか。	① 総合学科高校として特色あるキャリア教育活動に満足している生徒が80%以上である。	・1年次では系列や科目のガイダンスを充実させ、興味関心や進路希望との齟齬をきたさないよう二者面談や三者面談等ですっきりと確認する。また、キャンパス見学やインターンシップを実施し、事前・事後学習にも積極的に取り組ませ、自らの将来を考えさせる。 ・2年次では、「自己探究セミナー」を通して自らを客観視し掘り下げさせるとともに、1年次に選択した系列ごとの学習の充実も図ることで、主体的に進路選択を考えられるように働きかける。 ・3年次では、できるだけ早くから二者面談等を行い、進路目標達成に向けての具体的な取り組みができるような準備をさせる。	A	A	A	・1年次では、系列・科目ガイダンスを充実させるとともに、二者面談・三者面談を重視して、生徒が主体的な選択を行うことができた。キャンパス・企業見学やインターンシップ、福祉交流や外部講師による進路講話も実施でき、自身の進路について考える機会を持たせることができた。 ・2年次では、「地域を知る」講座と沖繩修学旅行の事前・事後学習をととし、渋川や群馬の地域性を学ぶとともに、平和学習についても深めることができた。また、3年次の科目選択も主体的に取り組むことができた。 ・3年次では、外部講師による進路講話も経験するなど、自らの進路実現に向けて主体的・具体的に取り組むことができた。	A	A	・総合研究の発表を聞き、感動した。将来を見つめながら段階的に学習して、今日に至っていると感じた。IT意識を持った発表で、とてもわかりやすかった。生徒が自分の将来に向き合い、成長していると実感した。 ・特色ある学校として、より高く評価されるような取り組みをこれからも続けていくことを期待する。	
		② 学校の諸活動に意欲的に取り組んでいると感じている生徒が80%以上である。	・部活動や体育祭等の学校行事を通して、学校への帰属意識を高める。入学式や体験学習会などの学校行事で生徒に係業務をさせたり、発表の機会を設けるなど、生徒に積極的に学校行事に関わらせる。	A	A	A	・球技大会や体育祭等の行事では、積極的に競技に取り組む姿が見られた。また、オープンスクール等においても校舎案内を生徒が行い、中学生・保護者にも大変好評であった。引き続き、生徒が活躍できる機会を設けていきたい。				
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	④ 目的意識を持って主体的に学習や資格取得に取り組み、自らを成長させようと努力している生徒が80%以上である。	・学年ごとのキャリア教育指導用ワークシートを活用し、生徒自らが設定した課題解決に向けたテーマに沿った「研究」が3年間を通してできるよう、導入時からの指導の充実を図る。 ・相互に研究成果を発表させることですべての生徒に刺激を与え、主体的な学びに対する意欲を喚起する。	A	A	A	・各系列・コースにおいて、積極的に資格取得に取り組む生徒の姿が見られた。 ・資格取得や総合研究を進路と結び付けて、今後も生徒が主体的に学習に取り組めるような環境を整えていきたい。	B	B	・青翠高校へ送り出した生徒たちが、自分の将来に向き合い、段階的に成長している様子を感じる。総合学科の特色を有効に生かしていると思われる。	
		⑤ 学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が80%以上である。	・進路指導部や総合学科推進部と連携し、キャリア教育と結び付けながら、授業や資格取得への意識を高める。 ・各教科と連携し、希望者に対して放課後に検定等の補習を実施するなど、計画的に指導する。	B	B	B	・多くの授業でICTを有効に活用し、生徒が自己決定、対話・交流、試行錯誤を通して問題解決能力を高められるよう、積極的に授業改善に取り組んだ。 ・オンライン授業の体制を整え、学級閉鎖等にも問題なく対応することができた。				
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥ 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に1～2回程度行っている。	・定期的な、職員会議や分掌・係・学年などの会議をして、些細なことでも生徒に関する情報交換をすることで、全職員の共通理解を図る。	A	-	A	・職員会議、運営委員会、学年会議、各分掌会議と生徒の状況を把握する機会があり、定期・不定期の情報交換がされている。また、議事録を管理職に必ず提出して、教職員全体で情報共有できるようにしている。	A	-	・いじめ問題の評価については、学校と生徒・保護者で差がある。いじめが見えにくい時代であり、SNSや画像の拡散などもある。保護者との連携など、対応に苦慮している状況は中学校も高校も同じだと感じた。 ・子供によって学校のことを親に言う子供と、言わない子供がいる。また、自分のことは言わないが、周りのことを言う場合もある。 ・今回の評価を、生徒の安定した学校生活の実現につなげてもらいたい。	
		⑦ 部活動等への加入率が70%以上である。	・1年次に国語、英語、数学を中心に少人数・習熟度別授業を実施し、基礎・基本の定着を図る。 ・ICT機器を効果的に活用し、誰にとっても分かりやすい授業展開を実施する。	C	B	B	・部活動紹介や部活動見学の際に、部活動をする意義を伝えるとともに、魅力ある活動を通して加入率を高める。 ・今年度のいじめ認知件数は4件であった。いじめの早期対応を心がけており、法に基づいた組織の対応により大きなトラブルにならずに、解消、あるいは解消に向かっている。いじめについては発見に対する対応は概ねできているが、いじめ防止やいじめの早期発見について内部と外部の評価が違う点は課題である。				
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的にを行っていますか。	⑧ いじめの解消率が90%以上である。	・学校いじめ防止基本方針、学校いじめ防止プログラム、学校いじめ対応マニュアルを生徒、保護者に周知し、未然防止、早期発見、早期対応を徹底して、いじめの根絶を図りたい。	A	C	B	・年5回の定期試験最終日などを利用して、定期的・組織的に服装・頭髪指導を行っている。身だしなみ指導については、教職員が同一歩調で、生徒へ公平な指導ができるように、身だしなみ指導体制の再構築の検討を実施したい。	B	A		
		⑨ 基本的生活習慣を身に付け、服装頭髪など身だしなみがしっかりしている生徒が90%以上である。	・基本的生活習慣の確立、挨拶や身だしなみについて生徒の意識を向上させるように、全職員が共通理解のもと指導する。	B	A	A	・遅刻率については1.37%と目標以下の数値となってしまった。遅刻者数の減少に向けて今後取り組んでいかなければならないと考えている。生徒には規則正しい生活を送ることの大切さを理解させ、社会の中で信頼される人間作りを心がけていきたい。				
	6 生徒は規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩ 家庭と連携を図ることで、生徒の遅刻者数は、1日平均1%以内である。	・遅刻が続く生徒に対しては、担任から家庭に連絡を入れることを徹底して、遅刻から欠席につながるようなことがないように、早期対応をする。	C	A	A	・必要に応じ随時発行することはできたが、外部アンケートでの評価が低かったため、掲載内容を検討し、発信する情報をさらに興味を持ってもらえるものにしていきたい。	C	A		
		⑪ 「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる活動を実施し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	・各行事やテストを実施後、自己に対する理解と課題を発見させ、成長を促す。 ・総合的な探究の時間とLHRを効率的に組合せ、3年間を見通した一貫性のあるキャリア教育を実施する。その際に「高校卒業時の進路」を「その後の自己の生き方」につなげるための考察の機会を各学年に必ず設ける。 ・三者面談で、進路希望について必ず確認する。 ・進路希望調査実施前に家庭で保護者と進路について相談させる。	A	A	A	・進路実現に向け積極的に取り組んでいる生徒についての回答結果は90%以上であった。今後も他分掌と連携し、現状を把握した上での指導計画を考察し、3年間の総合的な探究の時間の計画について、生徒の実情に即したキャリア教育を実現していくことを目指したい。				
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑫ 生徒の将来の志望について理解している保護者が80%以上である。	・進路だよりを毎月発行し、本校卒業生の進路状況や学習状況、入試の動向や求人状況など、進路関連情報を提供する。 ・発行の際は一斉メールで保護者に連絡し、Webページにアップする。 ・生徒の進路希望別に随時集会を設け、情報の提供を行う。	A	A	A	・将来の進路志望の理解について、理解しているという回答が生徒95%に対し保護者が90%であった。昨年度は3%の差だったので、この差を少なくすることができるよう、今後も三者面談等で確実に確認していけるようにしたい。	A	A	・総合研究の発表の様子を聞いてると、興味ある分野をさらに深化させて、専門学校等にすすんで勉強すれば将来にもっと生かせるのではないかとと思う。	
		⑬ 進路だよりを必要に応じて随時(年間12回以上)に発行している。	・悩み等を抱えている生徒の職員間の情報共有とそれに伴う迅速な初動対応ができるように、解決に向けてチームで協働する。特に、学年会議での生徒情報を定期的(会議形式、回覧形式)に係で共有する。 ・生徒や保護者のニーズにあった内容のSC通信並びに教育相談通信を発行する。また、係職員が輪番制で作成することにより、内容の幅を広げ、効果的な情報発信を行う。	A	B	A	・必要に応じ随時発行することはできたが、外部アンケートでの評価が低かったため、掲載内容を検討し、発信する情報をさらに興味を持ってもらえるものにしていきたい。				
V 日常的な相談活動が充実していますか。	9 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑭ 定例会議を月1回以上開催する。	・進路だよりを毎月発行し、本校卒業生の進路状況や学習状況、入試の動向や求人状況など、進路関連情報を提供する。 ・発行の際は一斉メールで保護者に連絡し、Webページにアップする。 ・生徒の進路希望別に随時集会を設け、情報の提供を行う。	A	A	A	・定例会議の実施が難しかったが、学年主任の協力により、職員間の情報共有を迅速に行うことができた。また学年会議での生徒情報を回覧し情報共有を図った。次年度は、可能な限り定例会議を時間割に組み、チームとして協働する体制を強化したい。	A	B	・今年度の取り組みを継続してほしい。	
		⑮ 教育相談通信・スクールカウンセラー通信を定期的(年間6回以上)に発行する。	・生徒や保護者のニーズにあった内容のSC通信並びに教育相談通信を発行する。また、係職員が輪番制で作成することにより、内容の幅を広げ、効果的な情報発信を行う。	A	B	A	・昨年度より外部アンケートでの評価は上昇したが、生徒や保護者のニーズにあった内容の掲載や発行時期を心がけ、次年度も情報を提供をできるようにしていきたい。				
VI 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑯ 学校の教育活動を地域及び関係機関の方々に理解してもらうために「学校公開」を年3回以上実施している。	・授業公開や体験学習会など、多くの方に興味を持っていただけるよう、内容を工夫する。 ・学校の教育活動を伝えるために学校通信を発行する。 ・Webページやインスタグラムの内容を充実させる。	A	A	A	・中学3年生向けの学校公開を4回実施した。9月のオープンスクールと12月の学校説明会では、校舎案内を生徒が行い、参加者にも大変好評であった。 ・今年度は新たな取組として、PTA総会の授業公開を中学3年生・保護者も対象とし、同日に中学校職員対象の説明会も行った。	A	A	・PTA総会の保護者の参加が少ないのは、学校と保護者の連携ができていないのではないかと。それが、いじめに対する見解の差にも表れているのではないかとと思う。 ・地域や保護者の声を聞き、より発展することを期待する。	
		⑰ PTA総会、学年保護者会等に積極的に参加している保護者が70%以上である。	・PTA総会、PTA諸会議、マナーアップ運動、PTA研修会等のPTA活動をより参加しやすいよう改善を図る。また、各学校行事等に家庭や地域社会が積極的に関わられるよう、魅力的な運営・内容を心掛け改善を進める。 ・PTA新聞を通じて本校の諸活動や生徒の様子を広く家庭や地域に伝える。また、Webページやスマート連絡帳及びオクレンジャーを効果的に活用し、広報活動や連絡を徹底する。	D	D	D	・PTA総会及び学年保護者会は、保護者が参加できるように土曜日に実施していたが、保護者の勤務形態も多様化しており、土曜日でも参加が難しい状況である。今後は実施日時の見直しやオンライン総会の導入などを検討したい。併せて、総会で生徒の発表機会を設けるなど、引き続き保護者が「参加してみたい」と思える総会や保護者会となるよう、工夫していきたい。				
	11 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑱ 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施している。	・各系列の学習内容や生徒の興味、関心(特に進路)に合わせてテーマを選び、講演会を実施する。	A	-	A	・PTA研修会での参加保護者は、各分野の講師を通じて、普段は聴くことのできない情報を収集したり、生徒の進路実現に向けた最新情報を入手したりして、有意義な時間となった。今後とも、生徒の実態に合わせた研究会を遂行していきたい。	A	-		
		⑲ ICTを活用した授業に満足している生徒が80%以上である。	・ICT機器を効果的に用いるとともに、Googleクラスルームの活用を推進する。また、オンライン授業の体制を整える。	A	A	A	・ICT機器を積極的に活用し、主体的、対話的で深い学びへとつながる授業を行うことができた。また、オンライン授業の体制を整えることができた。 ・Googleクラスルームを積極的に活用し、各種通信等の情報発信を行うことができた。				
VII 教育デジタル化に努めていますか。	12 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ オンラインによるアンケートを3回以上実施している。	・学校評価アンケート、授業アンケート、学校行事の振り返り等、オンラインで実施する。	A	A	A	・各種アンケートにGoogleフォームを活用し、学校全体としては8回以上実施した。また、3年の総合研究においてもGoogleフォームを積極的に活用する生徒が多く、次年度も継続したい。	A	A	・今年度の取り組みを継続してほしい。	
		㉑ ICTを活用した業務改善を行っていますか。		A	A	A					